

当たる!

広報クイズ(23)

応募の方法は...

はがきに答えの記号(例) A、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。

○あて先 〒950-112 白根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係

○締め切り 二月十九日(火) 必着のこと

○抽選 二月二十日(水)に市役所に来られた人に抽選していただきます。

○発表 三月一日号

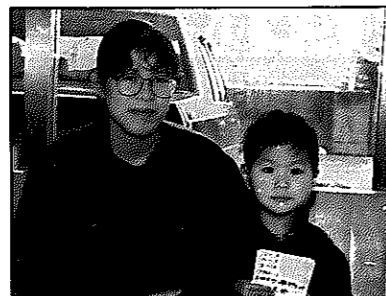
今月の問題は...

- ①一月十八日、広域農道推進協議会が設立されました。大いに期待されるこの広域農道の整備が構想される地域は?
- A 大通川の西
B 大通川の東
C 中ノ口川の東
(ヒント=六ページ)
- ②戸石新田八幡宮のしめ縄は、ある動物の形に見立てて作られています。その動物とは?
- A 竜
B イタチ
C 馬
(ヒント=七ページ)
- ③白井中学校の英語指導助手へレン・キーンさんが生徒たちからうれしいプレゼントをもらいましたが、それは何?
- A 手作りのクリスマスカード
B 手作りのチョコレート
C 手作りのぬいぐるみ
(ヒント=十二ページ)

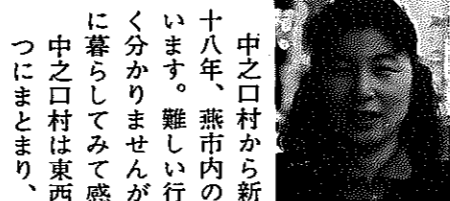
当選おめでとう!

[500円の図書券]

- ▶ 斎藤克芳さん (引越・34歳)
 - ▶ 笠原節子さん (鷲ノ木新田・52歳)
 - ▶ 須藤絹恵さん (小坂)
 - ▶ 若林あづささん (能登・23歳)
 - ▶ 富山久子さん (戸頭・48歳)
- [県立自然科学館招待券]
- ▶ 小野里亮子さん (旭町・36歳)
 - ▶ 川又弘子さん (庄瀬・28歳)
 - ▶ 吉沢美鈴さん (四ツ興野・18歳)



1月21日に市役所に来られた大沼琢磨くん(大通南4)に抽選していただきました。先月号の正解は●B●B●Aでした。応募総数は44通で、そのうち正解は35通でした。



白根市に住んで思うこと 三つの地域に暮らしてみても

知野旗江さん (下町乙 祖母四十歳)

中之口村から新飯田に嫁いで十八年、燕市内の職場に通っています。難しい行政のことはよく分かりませんが、三つの地域に暮らしてみても感じたことです。中之口村は東西とありますが、つにまとまり、みんなでやる

うとするパワーのようなものを感じました。二十年ほど前は、本場にこれが村の中心かと思われるような役場や公民館で、そんなことも苦みせず一生懸命活動したものです。現在の施設面の充実に、生まれ故郷が発展し

ていくのを心強く思います。燕市は市の隅から隅までスポーツ施設、広場、公園など、何でもこなすことができるのか感心させられます。地域の隅々まで中央の手足が伸びていると感じます。さて白根市ですが、白根の端の新飯田。公園も広場もなく、グラウンドも小中合同。白根の街へ行くのは医者通いくらい。名前は白根市でも地区がそれぞれ別々という感じがします。市

民一体となつての活動や、地区から中央に飛び出しているように思えます。燕の市民祭、中之口の七夕祭りみたいな、老若男女が楽しめる何かがあったらと思うのは、新飯田に住む私一人でしょうか? 表面的な見方しかできなかったと思いますが、これから何十年と住む白根市。市民の一人として住みよい市づくりには何かの役に立てればと思います。

市民談話室

昭和四十四年十一月十四日は、今思い起こせば、秋晴れの天気の良い日でした。私たちの結婚記念日は振り返れば昨日のような気がします。二十年もの月日がもう過ぎたのかなあと思っています。

私二十二歳、妻十九歳の二人は夢をいっぱい抱き、人生二人三脚の意気込みでスタートしました。そのころはまだ農業も景気がよく、朝早くから夜遅くまでの仕事でした。まだ機械化もされていませんでした。

それから間もなく時代の流れも変わり、農業一本では経済的にもなかなか難しくなりました。わが家でも田畑は委託に出し、われわれ夫婦も会社勤めのサラ



念願だった集会所の完成 皆さん「深く感謝」

吉原幸子さん (上笠巻 農業四十五歳)

十一月八日は私たち上笠巻部落民にとって忘れられない日です。十一月とは思えない素晴らしい天気恵まれた日でした。私たちの長い間の念願だった集会所の竣工式だったのです。

集会所を作らせていただくに当たり、市長さんや、多くの議員さんたちから協力をいただきました。また、敷地の提供をいただきました東笠巻新田の皆さん、さらには下笠巻、中笠巻の皆さんのお力添えで、とても素

晴らしい集会所が出来上がりしました。私たち一同喜びでいっぱいです。また、忙しい中を頑張ってくださいました役員の方々に、はじめ部落の方々、本場にありがとうございました。

集会所が出来たことは、私たちにあってはカルチャーセンターに勝る喜びです。これからは部落や老人会、私たち婦人会など、いろいろな会合に大事に使わせていただきます。そしてみんなの時であることにこの喜びをかみ締めていきたいと思えます。

札を言わせていただきたいと思えます。過去二十年間、わがままな私でしたが、今まで本当にありがとうございました。

私たちが北海道から転居してきたときは三万五千二百八人だった白根市の人口が、十一月の広報では三万六千三百二十四人になっていました。早いも

ので、町内会の人たちやお隣、ご近所の人たちのお世話にならながらも三年半になります。初めのころはごみ出しのときにも車の危険を感じていた家の前の道路に、今年度は歩道を整備していただきました。老いた私は天国を歩いているような気分です。お隣に回覧板を回しています。また、素晴らしいカルチャーセンターが、末娘の通った懐かしい中学校の横に出現し、趣味の友の輪が広がりました。人口も増え、住環境や施設も徐々に整えられ、白根市が確実に発展している様子を頼もしく思います。また、度々の海外旅行から帰ってきた折に「ああ、わが白根の街は清潔だ」と感じます。恵まれた白根の自然環境に加え、清掃事業等にも市政が反映しているからだと思心しています。終わりに白根市民の皆様の上に神様の平安が豊かにございますようお祈りいたします。



結婚生活二十年を振り返り 「あじがごとく」の一日を

斎藤義雄さん (庚 会社員四十三歳)

リーマン生活に変わりました。農作業はしなくともよくなったので、私には肉体的には楽になったと感じました。しかしその反面、今度は会社勤めの時間に縛られた生活。そんな中、妻は朝早くから朝食作り、弁当作り、子育て、洗濯と、今考えれば自身は楽になったにせよ、妻は逆に時間までの出勤で、てんてこ舞いの一日の始まりだったと思います。そして現在もその延



渡辺紀久子さん(みの口主婦六十歳)

わが街白根に寄せて
発展を頼もしく思う

長といったところです。どこの家庭でも妻の立場は同じだと思えますが、私自身、今、妻の苦勞を思い起こして、結婚生活二十年の節目として、本紙をお借りして病身の妻に一言お

角田から吹く風を待ち大根干す
成沢 東明
つるされていよいよ赤き唐辛子
小林 光子
うすうすと曇る月あり花ハツ子
公衆 雪夫
御神楽岳の噴れて湧り本園
猪股 南魚
霜月や朝市に売る串の餅
知野信一郎
今年植まじ柚子の苗より雪圍ひ
安次 飛浪
枯野越え暮しの音の響きけり
木村 トリ
婆様の寺の落葉を掃く幸仕
五十嵐寛吾
高々と尾花のそよぐ枯野かな
細貝 漢子
言はてもと悔いて帰りに生姜酒
内山 京子
一葉追ひ二葉追うては落葉掃く
小林 すみ
(以上大風会)

市民文芸

俳句

短歌

川柳

小出よしの
書庫ひらきしたむ日記五十冊
廻想深きなつかしの日び
小出熊四郎

日記帳遺言らしく閉じて置く
山岡 フミ
ざりざりに手形落とした荒息
米野 光雄
未熟児のまま大臣入れ替わり
本間 雪江
終点にくると首輪が重くなる
吉川 彰
客を釣る餌を度々取り替える
今井 七郎
拝啓と先ずワープロで試す指
織田 セツ
本心はチャッカリ酒に罪を着せ
後藤マサノ
聞いてません判りませんと白らを切る
佐藤トミノ
拝啓と書いた中味は子の無心
佐藤 ヨキ
雪の下出を待つ候補と膝のとう
高橋祐四雄
薄氷は人に踏ませてから渡る
竹石 甚五
芋粥をすすった事のない政治
田中 成子
雷鳴が一夜半の胸騒ぎ
田村 恒夫
カルタ取り読み手が居ない校家族
時田 良子
クリスタル・ガラスはしたい金バツ
中村 尚治
自画像は減張つける色採す
西条 ムラ
拝啓で小休止した筆の足
早川 英男